

平成29年度小学校教諭等対象

新教育課程説明会

〔国語科〕



東部教育事務所 学校教育係

平成29年8月22日（火）
太田市宝泉行政センター

冊子の構成（目次）

第1章 総説

第2章 国語科の目標と内容

第1節 国語科の目標

第2節 国語科の内容

1 内容の構成

2 〔知識及び技能〕の内容

3 〔思考力, 判断力, 表現力〕の内容

第3章 各学年の内容

第4章 指導計画の作成と内容の取扱い

系統表

育成を目指す資質・能力の三つの柱

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

国語科改訂の主な内容：内容の構成の改善

解説 7ページ

(
現
行
)

「A話すこと・聞くこと」

「B書くこと」

「C読むこと」

+

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕



〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項

〔思考力・判断力・表現力等〕

A話すこと・聞くこと

B書くこと

C読むこと

〔学びに向かう力、人間性等〕

指導事項のまとめりごとには示さない

(
新
)

学習内容の改善・充実

5つの
ポイント

- ① 語彙指導の改善・充実
- ② 情報の扱い方に関する指導の改善・充実
- ③ 学習過程の明確化、「考えの形成」の重視
- ④ 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実
- ⑤ 漢字指導の改善・充実



国語科改訂の主な内容

解説 9・10ページ 系統表⑤176

系統表の重視

系統的
段階的

螺旋的
反復的

H29 学校教育の指針
(2) 国語 1 ページ

日 書くこと	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
題材の設定			
情報の収集	ことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。
内容の検討			
構成の検討	自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考へること。	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考へること。	筋道の定まった文章となるように、文章全体の構成や展開を考へること。
考えの形成	語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	目的や意図に応じて簡潔に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
記述			エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
推敲	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えること。	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。
共有	カ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けすること。	オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けすること。	カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けすること。
言語活動例	(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きした活動。 イ 日記や手紙を思ったことや伝えたいことを書く活動。	ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 イ 日記や手紙を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。	ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。

指導事項

言語活動例

教科の目標は、次のとおりである。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る。

ゴシックは引用

教科の目標では、まず、国語科において育成を目指す資質・能力を国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とし、国語科が国語で理解し表現する言語能力を育成する教科であることを示している。

言語は、言語形式とそれによって表される言語内容とを併せもっている。平成20年告示の学習指導要領においては、「国語を適切に使う能力と国語を使って内容や事柄を適切に表現する能力」、「国語の使い方を正確に理解する能力と国語で表現された内容や事柄を正確に理解する能力」の両方の内容を含んだものと「国語を適切に表現し正確に理解する能力」を示していたところである。

改訂において示す国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とは、国語で表現された内容や事柄を正確に理解する資質・能力、国語を使って内容や事柄を適切に表現する資質・能力であるが、そのために必要となる国語の使い方を正確に

定義

国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、**国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力**を次のとおり育成することを旨とする。

知識及び
技能

(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

思考力、判断力、
表現力等

(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

学びに向かう
力、人間性等

(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

各学年の目標

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
知識及び技能	(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
学習に向かう力、人間性等	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語を大切にして思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

言葉による見方・考え方 を働かせ、**言語活動**を通して、**国語で正しく理解し適切に表現する資質・能力**を次のとおり育むことを目指す

- (1) 児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

「主体的・対話的で深い学び」における「深い学び」を考える鍵

言葉に着目し、言葉に自覚的になるような指導を...

内容の構成

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項

〔思考力・判断力・表現力等〕

- A 話すこと・聞くこと
- B 書くこと
- C 読むこと

[知識及び技能]の内容

解説 16～21ページ

系統表②170

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

○言葉の働き

○話し言葉と書き言葉

○漢字

○語彙

○文や文章

○言葉遣い

○表現の技法

○音読、朗読

○漢字

都道府県に用いる
漢字25字を配当

漢字指導の改善・充実

改訂のポイント⑤

新たに加えた漢字20字

茨 媛 岡 瀉 岐 熊 香 佐 埼 崎
滋 鹿 縄 井 沖 栃 奈 梨 阪 阜

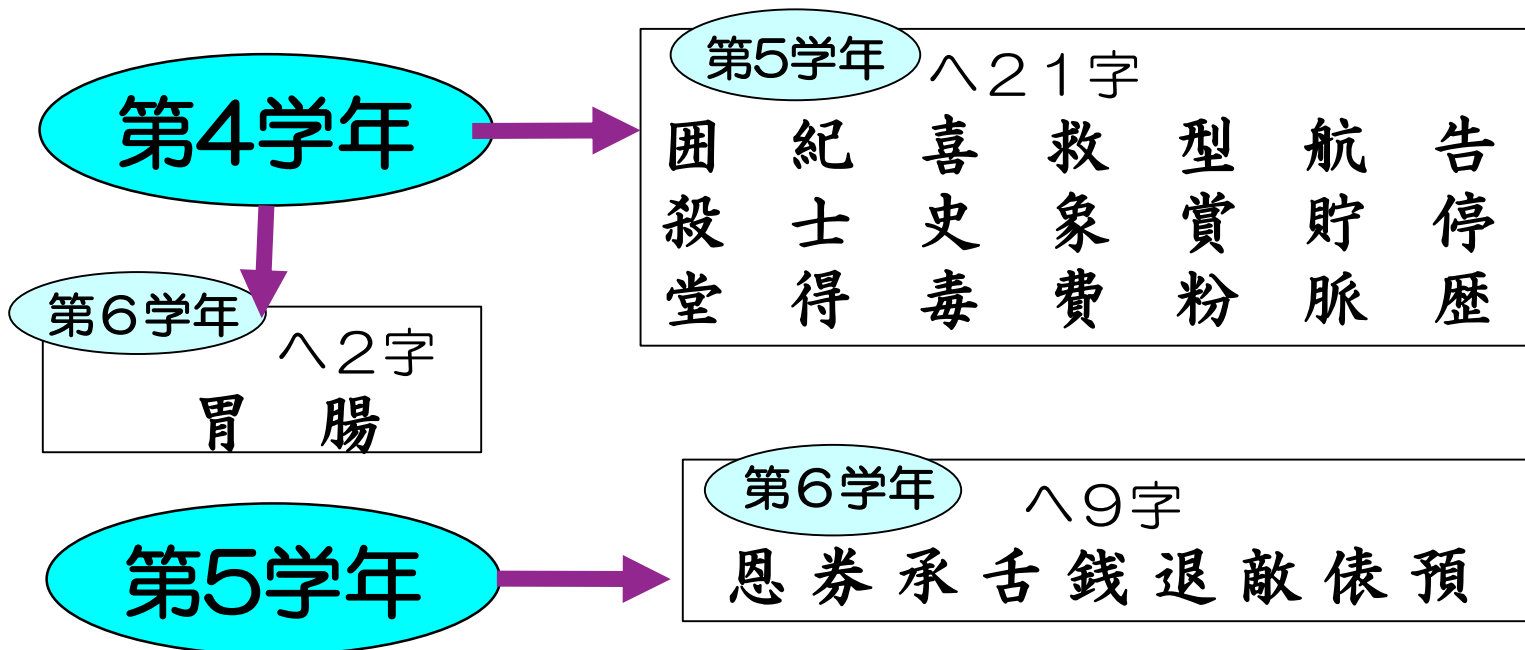
第5学年 より4字

賀 群 徳 富

第6学年 より1字

城

第4学年



	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	計
平成20年告示	80字	160字	200字	200字	185字	181字	1006字
平成29年告示	80字	160字	200字	202字	193字	191字	1026字
増減	0	0	0	+2	+8	+10	+20

* 移行措置

平成30年度...第4学年

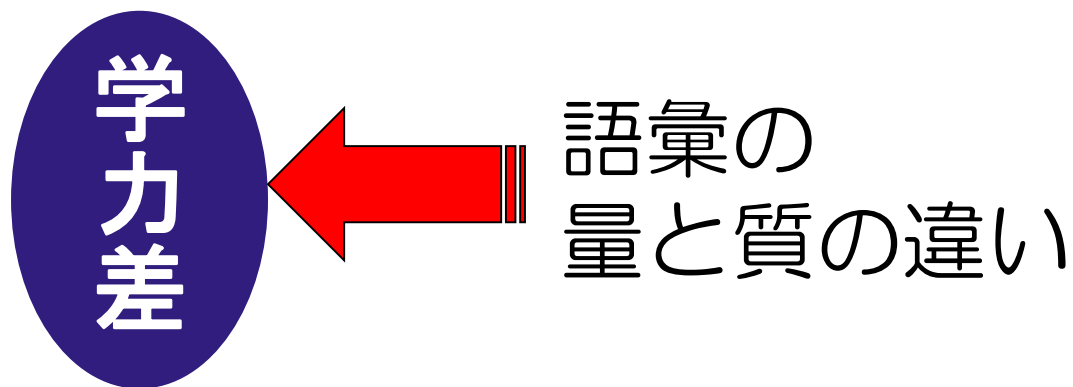
平成31年度...第4学年・第5学年

○語彙

解説 18 系統表②170

語彙指導の改善・充実

改訂のポイント①



全ての教科等における資質・能力の育成や
学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素

第1学年及び第2学年

第3学年及び第4学年

第5学年及び第6学年

<p>語彙</p>	<p>オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。</p>	<p>オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。</p>	<p>オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。</p>
-----------	--	--	--

系統表② 170

- 語句の量を増し、
- 話や文章の中で使うとともに、
- に気付き（理解し）、
- 語彙を豊かにすること。

〔知識及び技能〕の内容

解説 22・23ページ

(2) 情報の扱い方に関する事項

情報の扱い方に関する指導の改善・充実

改訂のポイント②

新設

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
	(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
情報と情報との関係	ア 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	ア 考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
情報の整理		イ 比較や分類の仕方, 必要な語句などの書き留め方, 引用の仕方や出典の示し方, 辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	イ 情報と情報との関係付けの仕方, 図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

系統表③ 172

そこで、授業においては、文章や資料の言葉、叙述、図表等の複数の情報を関連付けて、文章全体の構成や内容の大体を読み取らせましょう。そして、読み取ったことを基に自分の考えを書く際には、下に示した手順例を参考に自分の考えを支える根拠を整理させましょう。

根拠を明確にさせる手順例

- ① 課題に対する自分の意見（立場）を明らかにさせる。
- ② 根拠となる言葉、叙述、図表を○で囲んだり、つないだり、書き込みをしたりする。
- ③ 自分の考えとての根拠を書く。
- ④ 友達と意見交換をして、根拠の曖昧さを自覚したり、新たな視点を得たりする。
- ⑤ 意見交流の内容を生かし、自分の考えとその根拠を再構成して書く。

<図で可視化して根拠を整理する例>

小学校第4学年「ごんぎつね」を読んで感想を交流しよう ～根拠を明確にして自分の考えをまとめる～

「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。」という終わりの一文があるのとないのとでは、どちらがうか話し合います。



[知識及び技能]の内容

解説 24・25ページ

系統表③ 172

(3) 我が国の言語文化に関する事項

我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

改訂のポイント④

- 伝統的な言語文化
- 言葉の由来や変化
- 書写
- 読書

内容の構成

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項

〔思考力・判断力・表現力等〕

- A 話すこと・聞くこと
- B 書くこと
- C 読むこと

[思考力, 判断力, 表現力等]の内容

解説 27~38ページ

「A話すこと・聞くこと」領域の構成

	学習過程	(1) 指導事項			(2) 言語活動例		
		第1学年及 第2学年	第3学年及 第4学年	第5学年及 第6学年	第1学年及 第2学年	第3学年及 第4学年	第5学年及 第6学年
話すこと	話題の設定	ア	ア	ア	ア イ (話し合ったり聞いたりする活動) ウ (話し合う活動) ア、イ (話し合ったり聞いたりする活動)	ア、イ (話し合ったり聞いたりする活動)	ア、ウ (話し合ったり聞いたりする活動)
	情報の収集						
	内容の検討						
	構成の検討	イ	イ	イ			
	考えの形成						
	表現	ウ	ウ	ウ			
共有							
聞くこと	話題の設定	ア	ア	ア	ア (話し合ったり聞いたりする活動)	ア、イ (話し合ったり聞いたりする活動)	ア、ウ (話し合ったり聞いたりする活動)
	情報の収集	(再掲)	(再掲)	(再掲)			
	構造と内容の把握	エ	エ	エ			
	精査・解釈						
	考えの形成						
共有							
話すこと	話題の設定	ア	ア	ア			

日 書くこと	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
題材の選択	経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。
情報の収集			
内容の検討			
構成の検討	自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考へること。	イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考へること。	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考へること。
考えの形成	語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
記述			
推敲	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整へること。	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整へること。
共有	エ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けすること。	オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けすること。	カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けすること。

学習過程

指導事項

言語活動例

ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。
イ 日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。	イ 行きの案内やお礼を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。	

○考えの形成

学習過程の明確化、「考えの形成」の重視

改訂のポイント③

「B書くこと」領域の構成

	学習過程	(1) 指導事項			(2) 言語活動例		
		第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
書くこと	題材の設定	ア	ア	ア	アイウ	アイウ	アイ
	情報の収集	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。			エ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。		ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
	内容の検討						
	構成の検討						
	考えの形成						
	記述						エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
	推敲						
共有	オ	オ	カ			活動	

活動ありきではなく、活動を通じてどのような資質・能力を育成するのか

○共有

解説 28・32・36

○共有

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校第1学年
オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。	オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	オ 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。

小学校段階では、
「よいところ」を見付ける

学校教育の指針（２）④

<目的>

<手順>

<留意点>

互いの考えを認め合う	観点を基にグループ内で互いの考えのよいところを伝え合う	互いのよさを伝え合う場面を設定し、自分の考えに自信をもてるようにする
自分の考えを広げたり深めたりする	1回目は意見の同じ人、2回目は意見の違う人など、複数の友達と繰り返し交流する	新たな視点の考えや自分の考えに追加したい根拠等をメモさせる
考えを一つにまとめる	観点を基にしてよい意見を選んだり、各自のよい点を組み合わせたりして納得解や最適解を作成する	付箋に意見を書いてボードに貼るなど、思考過程を可視化させることにより、互いの考えを比較・検討できるようにする。
個や集団の考えを発展させる	グループや学級全体で、意見を発表し合ったり、質問・反論したりする 例 一人発表→関連する人発表→質問・反論→検討・整理→意志決定	意見に自信のない人から発表させたり、賛成か反対かを表明させたりするなど、全員が交流に参加できるよう支援する。

授業改善のための 言語活動の**創意工夫**

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。
イ 日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。	イ 行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。	イ 短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。
ウ 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	ウ 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	ウ 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。

**あくまでも「例」
児童の実態を踏まえ、アイデアを発揮！**

各学年の内容

- 第1節 第1学年及び第2学年の内容
 - 1 [知識及び技能]
 - 2 [思考力, 判断力, 表現力等]
- 第2節 第3学年及び第4学年の内容
 - 1 [知識及び技能]
 - 2 [思考力, 判断力, 表現力等]
- 第3節 第5学年及び第6学年の内容
 - 1 [知識及び技能]
 - 2 [思考力, 判断力, 表現力等]

指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画作成上の配慮事項

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- 弾力的な指導
- 〔知識及び技能〕
- 「A話すこと・聞くこと」
- 「書くこと」
- 「読書」及び「読むこと」
- 低学年における他教科等や幼児教育との関連
- 他教科等との関連
- 障害のある児童への配慮
- 道徳科などとの関連

指導計画の作成と内容の取扱い

2 内容の取扱いについての配慮事項

○〔知識及び技能〕に示す事項の取扱い

- ・ 日常
- ・ 辞書や辞典
- ・ ローマ字
- ・ **漢字**
- ・ 古典
- ・ **書写**

○情報機器の活用に関する事項

○学校図書館などの活用に関する事項

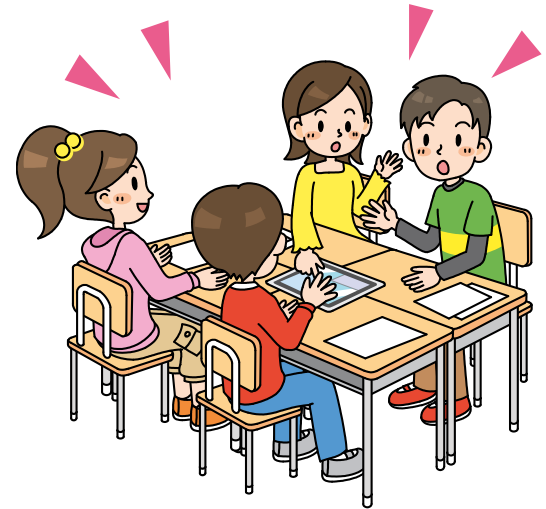
指導計画の作成と内容の取扱い

3 教材についての配慮事項

- (1) 調和的に取り上げる
言語活動が十分に行われるよう取り上げる
- (2) 教材を取り上げる観点（10項目）
- (3) 「C読むこと」の教材

おわりに...

○評価について



ご清聴ありがとうございました

※ここに掲載している資料は、文部科学省が作成した学習指導要領の解説（平成29年6月）を基に、一部を抜粋・加筆して作成しています。